2018年（平成30年）12月08日　（土曜日）　北海道新聞　朝刊　全道遅版　経済　11ページ
（北海道新聞社許諾D1812-1906-00020720）

いんたびゅー INTERVIEW

広がるキャッシュレス決済

岩下　直行さん

京都大教授

買い物の決済手段として現金の代わりに電子マネーを利用する動きが道内でも広がっている。読み取り機にスマホをかざしたり、2次元コードを使ったりなど種類も多い。キャッシュレス決済の普及にはどんな利点があるのか。日本銀行で初代のフィンテックセンター長を務めた、京都大教授の岩下直行さん(56)に聞いた。

（聞き手・宇野沢晋一郎）

――キャッシュレス化について、国内の現状は。

「日本の普及水準は国連加盟国でもまだ下位クラスです。アフリカの国などの方がもっと普及していますよ。銀行が少ないうえ、大量のお札を持つと泥棒に狙われるからです。中国では観光地でのサービスも2次元コードを使った電子マネー。もっとも中国ではほぼ2種類に電子マネーが集約されています。日本には16種類ありますが、今後集約されるでしょう」

――現金を使わないことにどんな利点がありますか。

「現金決済には大変な人手とコストがかかります。有料の博物館だったら入場券を売るカウンターに加え『もぎり』をする人も必要で、行列ができるかもしれません。電子マネーだと、入り口で瞬時に決済できます。いまの日本は労働人口が減っていて、キャッシュレス化で人材が別の仕事に就けます。また、将来、無人の自動運転タクシーや無人コンビニエンスストアが生まれた場合、現金決済をするのは盗難リスクもあり難しいはずです。キャッシュレス化は社会的な要請になっていきます。どんな人が何を買ったかも分かるようになり、貴重な顧客情報が得られます」

人手、コスト減 社会の要請

――個人情報の流出が怖いという懸念があります。

「クレジットカードやポイントカードは今も多くの人が利用しているはず。これらを使うとき名前や住所を登録するのと同じです。グーグルやアマゾンは情報を新たなビジネスに生かしています。プライバシー保護との間でどこが妥協点なのか、コンセンサスづくりが必要だと思います」

――道内では9月に全域停電（ブラックアウト）が起きました。キャッシュレスでは停電時に決済できません。

「では、現金は使えますか。停電するとレジも使えず、結局、決済は滞ります。停電リスクは全国にあり、緊急時の対応はまた別（の話）です。キャッシュレスを進めない理由にはならないでしょう」

いわした・なおゆき　1984年慶応大卒、日本銀行入行。94年から日銀金融研究所でセキュリティーの研究に就き、下関支店長、日立製作所出向を経て、16年に新設の日銀フィンテックセンター初代センター長。17年退職し京大教授。栃木県出身。

(C) 北海道新聞社　無断転載、複製および頒布は禁止します。
千　成珍　2018/12/10 20:06:20